令和７年度　一條小学校　学校研究計画

１．研究主題

「自らの学びを深めていく子どもの育成
～　単元構成や課題づくりの工夫　～」　　＜２年目＞

２．主題設定にあたって

これまでの研究から

本校では、R3～5 年度の 3 年間「学びに夢中になる子どもの育成」を研究主題にし、これまでの学校での取り組みを生かしながら、すべての教科・領域で学校研究を進めてきた。どの教科・領域でも、じっくりと学ぶことのできる課題に取り組むことで、夢中になって学ぶ姿が見られるようになり、研究授業以外でも、子ども自身が「夢中になって学んだ」と感じることのできる時間をもつことができた。

昨年度からは上述の研究主題に基づき、子どもたちが自ら学ぶための単元構成として、自由進度学習を取り入れた実践を進めた。自由進度学習によって、子どもたちの自己選択に基づく主体的な学びの気運を高めることができた。

今年度始めの教員対象のアンケートでは、昨年度に引き続き、単元構成や課題作りの工夫について研究を進めたいという声が多かった。

令和５年度　学校研究のまとめ
～アンケート結果をもとに～

☆子どもたちに昨年度より質の高い学びを提供できた。

☆先生方の教科指導における学びが多くあった。

☆来年度の研究につながる児童の実態が見えた。

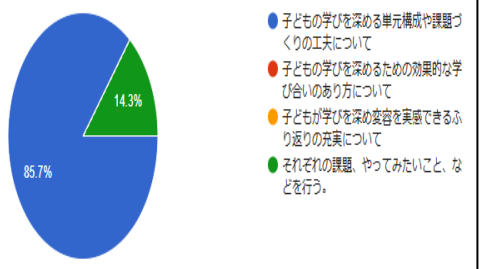
来年度の研究～教員アンケート結果をもとに～

子どもたちのどのような資質・能力を高めたいですか。

- 自分で**学習をつくる力**。
- **自分の**考えを友だちに伝えたり、友だちの考えからより**考えを深めたりすることのできる力**。
- **学んだこと**をどう使うか自ら考え、**深める力**。
- 限られたものや情報を活用し、**問題を解決する力**。
- **対話しながら学ぶ力**。

現時点で、どのようなことに課題意識や問題意識を感じていますか？

7 件の回答



子どもの実態から

本校の子どもたちは、指示されたことなどにはまじめに取り組むことができる。ほとんどの子どもたちが、学習は大切で将来役に立つと考えている。しかし、自分で判断し行動すること、主体的に考えを伝えたり、批判的に捉えたり、様々な考え方を見つけたりすることが苦手である。また、学習してすぐは内容について理解しているが、長期的な理解につながらないことも見られる。

これらを総括して、「自らの学びを深めていく子どもの育成」を研究主題として設定し、子どもが自ら学びを深めるとはどういう姿か、そのためにどのような手立てが有効であるかを明らかにしていく。

３．授業づくりの視点

視点１ 子どもが自らの学びを深めるための教師による単元構成や課題づくりの工夫	視点２ 子どもが自らの学びを深めるための教師による子ども理解と子どもの学びの見取り	視点３ 子どもが自らの学びを深め自身の変容を実感できるための教師によるふり返りの充実
・教師は、子どもの実態や学びの見取りを基にした単元構成や課題づくりを行う。 ・教師は、子どもが学びを深める時間を意識した単元構成を行う。 ・教師は、教科の特性（見方・考え方）を考えた課題づくりを行う。 ・教師は、子どもが自ら追求したくなる課題や考えを深めたくなる課題づくりを行う。	・教師は、子どもたちの学びを深めるためのコーディネイトをしつつ、子どもたちの学びを見取る。 ・教師は、子どもたちの学びの見取りを通し、次時の課題やふり返りの視点、より良い支援の在り方を検討する。	・教師は、ふり返りの視点を提示し、子どもがふり返りを通して自己の変容を実感できるようにする。 ・子どもと教師が評価を共有する（１時間で、単元で等）。

日常的な研修・実践

- 授業づくりの視点１・２・３に沿って日々の授業の改善を行う。
- 普段から教師はお互いの授業を見合い、教師も学ぶことができるようにする。
  （Google Classroom を活用した実践の共有）
- 様々な研修会、他校の授業研究会への参加とフィードバックを行う。
  （学びカフェを活用した研修）

４．年間計画

月	日	曜	内容	授業者
４	３	木	第１回　研究推進委員会 今年度の研究の方向性の検討	
４	１８	水	第１回　学校研究全体会 ワークショップ（課題に感じていることについて）	
５	７	月	第２回　研究推進委員会 今年度の研究テーマ及び重点、研究計画の検討	
５	１５	木	第２回　学校研究全体会 今年度の研究テーマ及び重点、研究計画の共有	
５	２３	水	事前研① 酒田市教委　阿部千咲・髙橋亜子指導主事参加	佐藤哲子（３年 算数科） 渡邉圭亮（４年 社会科）
６	１１	水	第１回　校内授業研究会 遊佐町立遊佐中学校　石黒久校長先生	佐藤哲子（３年 算数科） 渡邉圭亮（４年 社会科）
８	２９	金	事前研②	門田美佳（１年） 舟越裕人（５年）
９	１７	水	第２回　校内授業研究会 遊佐町立遊佐中学校　石黒久校長先生	門田美佳（１年） 舟越裕人（５年）
１０	１５	水	事前研③	梅津真歩美（２年） 鈴木佳恵（つくし） 近藤さおり（６年）
１１	１２	水	第３回　校内授業研究会	梅津真歩美（２年） 鈴木佳恵（つくし） 近藤さおり（６年）
１２			学校研究アンケート実施（児童及び職員）	
１	１５	木	第３回　研究推進委員会 第３回　学校研究全体会の提案	
２	５	木	第３回　学校研究全体会 校内授業研究会の成果と課題の共有、来年度の方向性の検討	

・事前研は、できるだけ事前（前日など）に資料をクラスルームにアップして各自目を通しておく。

・事前研の会場は、授業者の教室や学びカフェを使う。（積極的な「学びカフェ」の活用を！）

・事前研で足りなかった場合は、グループのメンバーで相談し、事前研２回目を設ける。

・指導案やふり返りは、校内の共有フォルダに入れ、閲覧できるようにする。
研究のまとめの冊子は、作成しない。

５．校内授業研究会のもち方

授業者は、子どもが自らの学びを深められるよう、単元や授業を構成し、実践を行う。

事前研

・事前研では、共に授業を作るという視点で、自分だったらと考え、取り組むようにする。

①子どもと同様に、子どもの気持ちで取り組む。

②教師の視点で、どのような授業にすると子どもたちが自ら学びを深めることができるかを考える。

授業研本時

・授業を参観しながら、写真や動画で撮影する。（子どもが自ら学びを深めているシーン）

・事後研までに数枚選び、事後研で提示できるようにする。

事後研

・事後研究会はグループごとに（参加の人数によって編成する）

撮影したものを提示しながら、

「自らの学びを深める子どもの姿とは？」ということについて考える。

どんな手立てがよかったか。　どうすればさらによかったか。　自分ならどうするか。

・参観者各自の気付きをふせん紙に書く。（話題にしやすいよう記名・１枚に１つの内容　大きく書く）

拡大した授業づくりの視点の該当する箇所に貼り、話し合いを深める（青…成果　赤…課題　黄…改善案）

・単元構成や課題について、ふり返りの視点など、日常の実践をしている中で感じていることについて意見交換を行う。

・子どもの「めざす姿」が授業を通してどうなったのか（どのように見取ったか）。

子どもが自ら学びを深めるための有効な手立てを、子どもの表情や言葉、「ふりかえり」の記述などをもとに明らかにしていく。

授業研終了後

・参観者は、事後研後に写真資料を使い、ふり返りをまとめる。（授業研で学んだこと）

→１年間記録（ストック）し、教師自身も変容を感じられるようにする。

→自分の学級の普段の様子もできる範囲で記録し、児童の変容に目を向けられるようにする。

６．学校研究組織

全　体　研　究　会

研究推進委員会

校　　長	庄司　真由
教　　頭	中村　哲
教務主任	冨士村拓郎
研究主任	渡邉　圭亮
研究副主任 （子どもＭＣ主任兼務）	鈴木　佳恵
子どもＭＣ担当 （学び方育成部長兼務）	近藤さおり
子どもＭＣ担当	門田　美佳

１学年担任	門田　美佳	２学年担任	梅津真歩美
特別支援学級担任	鈴木　佳恵	３学年担任	佐藤　哲子
４学年担任	渡邉　圭亮	５学年担任	舟越　裕人
６学年担任	近藤さおり	教務主任	冨士村拓郎
養護教諭	佐藤　かよ		